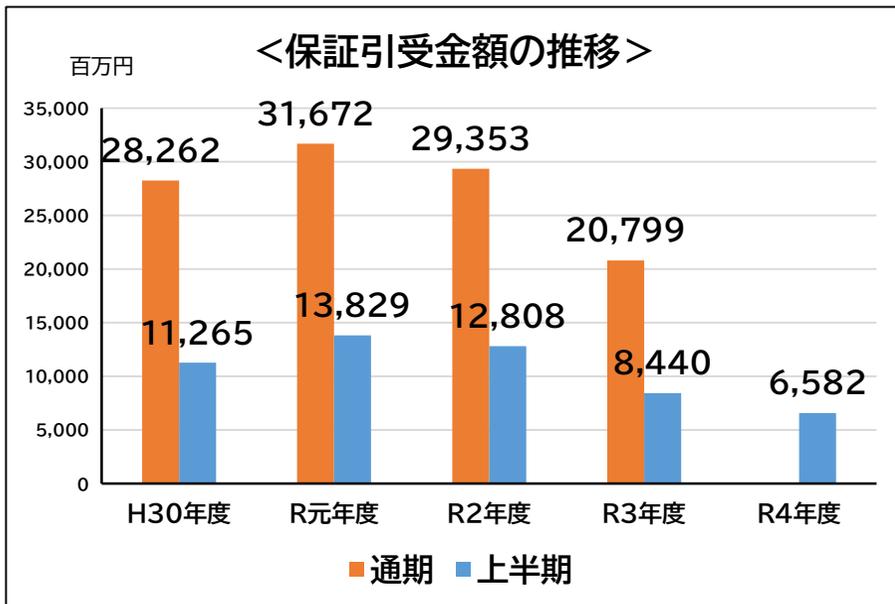


## 令和4年度上半期の林業信用保証業務実績の概況

# 1. 保証引受

- 令和4年度上半期(4~9月)の保証引受は、65.8億円(前年同期比78.0%)であり、この5年間を見ると、令和元年度をピークに減少傾向にある。
- 近年は、国全体のコロナ関連融資の充実等により、保証ニーズ全体が低下していると考えられるが、保証引受の減少について、直接比較が可能な令和4年度と令和3年度の上半期を見ると、①80%保証を原則とする取組の進展、②完済の増加と新規・増額保証の減少等が主な要因と考えられる。
- 上記①は、基金の方針に基づき着実に取組を進めた結果である一方、上記②は、趨勢に委ねているだけではなく保証引受額の減少に歯止めをかける、或いは増加に転じさせる対応を検討し得るものであることから、信用リスク管理の適切な実施に留意しつつ、制度普及を推進する。



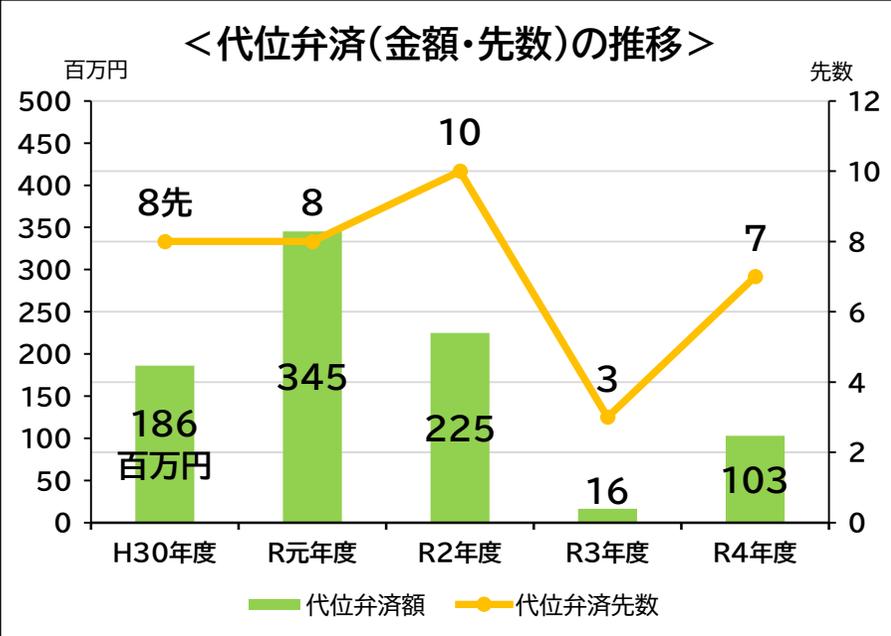
## <保証引受減少の要因> (令和4年上半期と令和3年上半期との比較)

単位:億円

保証引受減少の要因	金額	構成比
100%保証を80%保証に見直した案件	8.6	46.2%
借入金返済期日に完済となり、資金需要のなくなった案件	6.3	33.9%
経営悪化により保証が更新できず期日延長した案件	1.9	10.2%
新規・増額保証申込み案件の減少	1.8	9.7%
合計	18.6	100.0%

# 2. 代位弁済

- 令和4年度上半期の代位弁済は、金額は103百万円(前年同期比625.9%)、先数は7先(前年同期比233.3%)となった。
- 依然として、代位弁済額は低位にあるものの、昨年度と比較すると増加しており、
  - ① 全企業(中小企業)の業況判断指数が回復傾向にある一方で、木材・木製品製造業の業況判断指数は低下傾向であること
  - ② コロナ関連保証利用者の代位弁済案件発生が見られること
 等を踏まえ、期中管理等を適切に行うこととし、林業者等が事業継続できるよう、融資機関と連携し、条件変更等に柔軟に対応していく。



各年度とも、上半期(4~9月)の実績を計上。

## <業況判断指数(DI)の推移>

区分	2022年			
	3月	6月	9月	12月
全企業(中小企業)	▲6	▲2	0	4
木材・木製品(中小企業)	▲3	▲3	▲6	▲7

(注)・日銀短観(日本銀行の全国企業短期経済観測調査/2022年12月14日公表)より作成  
 ・DI:「景気が良い」と感じている企業の割合から、「景気が悪い」と感じている企業の割合を引いたもの

## <代位弁済事由の内訳>

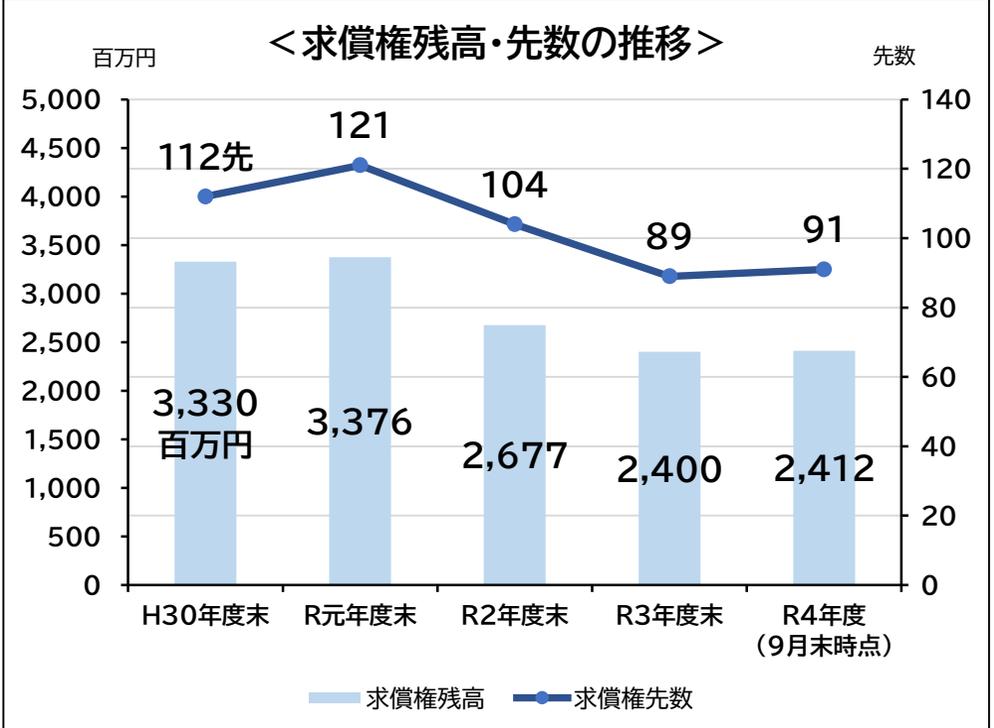
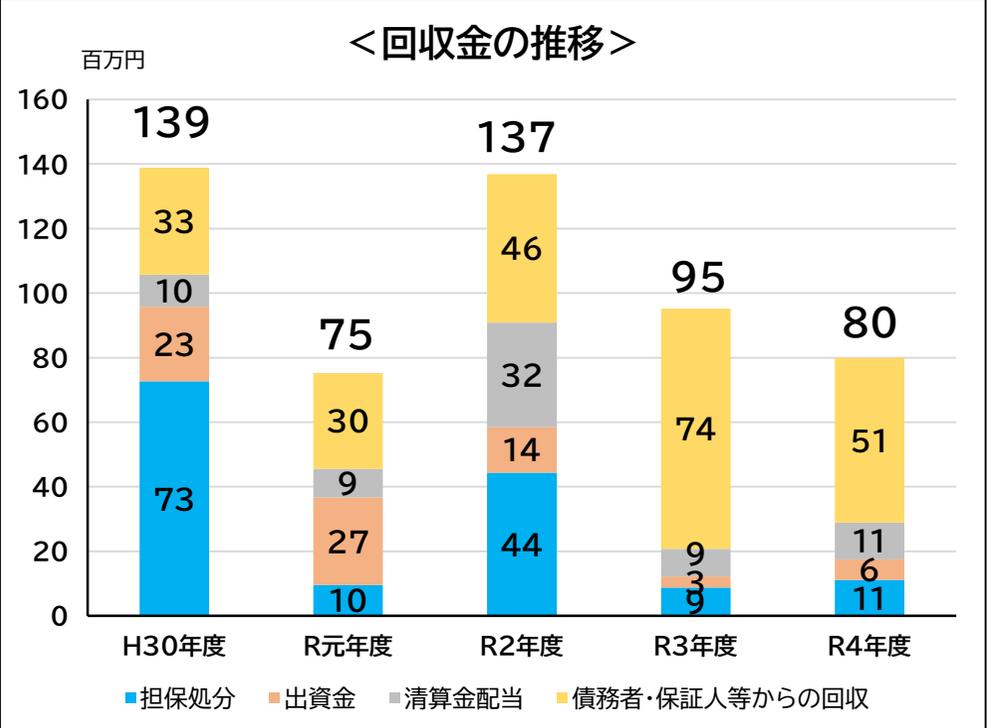
(単位:先数)

代位弁済事由	R3年度	R4年度
経営不振	1	5
うちコロナ関連保証利用先	0	2
人手不足による売上減	0	1
訴訟トラブル	1	0
経営者の死亡・体調不良	1	1
合計	3	7

各年度とも、上半期(4~9月)の代位弁済事由を計上。

# 3. 回収金

- 令和4年度上半期の回収金は、80百万円(前年同期比84.0%)となった。近年、代位弁済額が低位にあること、求償権残高・先数が減少傾向にあることから、回収金は減少傾向にある。
- 近年の回収金実績の内訳をみると、年度によってばらつきが見られ、担保価値や債務者・保証人の資力等に左右されるところが大きい。



各年度とも、上半期(4~9月)の実績を掲上。